田城（たぐすく）
宇検村立田検中学校
学校だより NO 7
令和6年11月25日

手紙　～拝啓　十五の君へ　校長　柳田　昭彦

11月２日（土）の奄美新聞に2023年度の不登校の小中学生が34万人（文部科学省の問題行動・不登校調査）を越え過去最多になったという記事が掲載されました。鹿児島県でも６年連続で最多を更新したそうです。不登校とは病気，経済的な理由などを除いて年間30日以上登校していない状況を指します。

2008年にアンジェラ・アキが第75回NHK全国学校音楽コンクール中学生の部の課題曲に「手紙～拝啓十五の君へ～」を提供し，その年の紅白歌合戦でその曲を歌いました。当時いい曲だなと思っていたところ，一人の生徒が「先生この曲は心に刺さる！」と言うので「そうだよね！」と返事をしたのを思い出します。2014年に南カリフォルニア大学音楽学校に留学し，かねてから進めていたブロードウェイ・ミュージカル・プロジェクトに専念することを決意。そしてアンジェラ・アキは無期限活動停止に入ります。

2023年11月に10年ぶりに日本での活動を再開することを発表したので，久しぶりに「手紙～拝啓十五の君へ～」を聴いてみました。すぐに，あの懐かしい音色が蘇ってきました。

この作品を作るきっかけは，本人が17歳の時に自分宛に書いた手紙が、30歳の誕生日に母親から届けられ，その手紙を読み「17歳の頃、こんなことで，あなたは悩んでいたのね！」と自分自身を切なく思い、作詞作曲を始めたとのことです。

1番の歌詞では15歳の「僕」が悩みを未来の自分に宛てて、“手紙”を書くことによって今を生きていることを表現しています。将来のこと、勉強のこと、家族のこと、友達のこと、部活のこと、恋のこと、性のこと、体のこと、見た目のこと、お金のこと、世の中のこと、自分自身の価値のこと・・・。思春期にある人それぞれに内に秘めた悩みを打ち明けています。２番の歌詞は30歳になって当時の15歳の自分に今なら何を言ってあげられるだろうかと考えて書いた歌詞。大人になって様々な困難を乗り越えた「僕」なら特効薬になりそうなアドバイスが描かれそうですが、歌詞の中ではそのような表現は出てきません。歌われているのは、ただひたすらに「僕」を励ます言葉だけ。それは，大人の「僕」もまだ長い旅の途中で、15歳の「僕」の「今」もちゃんとその道に繋がっていて，「15歳から繋がっている自分が、今も悩みながら少しは幸せを感じながら生きている」と伝えています。

ある雑誌の「この歌」に関するインタビューでアンジェラアキが，子どもたちに応援メッセージを残しています。

「勇気づけるような言葉をかけてあげたいと思うけれど、大人になっても苦しいこと、悲しいこと、辛いことはなくならない。例えば中学生が、今苦しみを乗り越えれば高校からは大丈夫かというと、残念ながらそうじゃない。また、別の悩みに出合う。でも、その痛みや苦しみを振り返った時に、『あの出来事には、こんな意味があったんだ』と思える日が必ず来ます。それに、痛みや苦しみを抱えているのはあなただけじゃないから大丈夫。ひとりじゃないですよ。」

地域の良さを再発見～自転車遠足～

10月25日(金)に田検中の伝統である全校自転車遠足で，今年は芦検・田検・石良集落を散策しました。自転車での全行程約16キロの道のりを自転車で走破しました。天気が心配されましたが，曇りで集落の方々の温かい心や自然等を感じながらサイクリングしました。ミッションをクリアしたり，ゴミを拾ったりしながら，各集落の新たな魅力を再発見しました。生徒は「疲れたけど，知らないこともあり，楽しかった。」と感想を話しました。来年は湯湾・須古・部連集落を散策します。よろしくお願いします。

チーム４人で協力してミッションをクリアしたり，お弁当を食べたりしてとても楽しかったです。地域の方々といいスポットや中学時代のことを話せてよかったです。普段あまり関わりのない方々と交流できました。１年元田　情

サシバと共に生きていこう～サシバ研修会～

12日に岩手大学の東先生等７人の講師を招いて，サシバについての研修会を行いました。

市貝町のＮＧＯの遠藤先生が，「サシバを守ることは，豊かな自然を守ることになり，人間の生活を守ることになる。」と話されました。栃木県市貝町はサシバを守りながら町づくりをしているそうです。研究家の東先生は，「日本一のサシバの越冬地である奄美大島（宇検村）で来年開催されるサシバサミットから，みんなで自然について考えてほしい。」と話されました。

自分たちで意識して～小・中合同避難訓練～

１日に地震と津波を想定した避難訓練を小学校と合同で行いました。各校から避難したり，車を使って避難したり，実際を想定して行いました。四級親水公園入口まで10分程度で避難できました。消防の方から「自分たちで意識して行動していたのでよかった。上下左右を確認しながら避難することも忘れず，自分たちで考えて判断して動けるようになって，自分の身は自分で守ってほしい。」と講評をいただきました。

対馬丸と原爆から平和への思いを伝えて ～一人一人が役割を果たして～

10日(日)に「We can do it ～　全力の先に感動を～」をスローガンに，日曜参観で小中合同学習発表会を開催しました。舞台では小学生の合奏や寸劇，シマ唄，三味線，中学生の劇や，統計グラフの発表，英語ショートスピーチ等がありました。劇では「生きぬいて～生命どぅ宝～」と題し，対馬丸事件で生きぬいた方々や，長崎で被爆された方々の証言を基に，平和への思いを全校生徒で演じました。今回は，神戸市役所センター合唱団や石坂美砂さんに曲を提供していただきました。役者班は，遭難者や被爆者の思いを理解し演じました。音響・映像班は，場面に応じたスライドや音響選びに苦戦しながら，大・小道具班は，少人数でしたが自分たちで考えて準備を行いました。練習が思うように進まない時もありましたが，緊張感をもって劇に臨み，素晴らしい発表でした。全体斉唱の「believe」は，小中学生の特長がよく表れた斉唱でした。展示では美術や技術・家庭等で作成した作品，歴代卒業アルバム等を紹介しました。とても素敵な時間が過ごせたと思います。たくさんの保護者と地域の皆様にお越しいただき，ありがとうございました。

文化祭を終えての感想

1年 松枝 瑠渚	私が学習発表会で頑張ったことは，当時の人になりきることや，観客のみなさんに対馬丸や原爆について深く知って考えてもらうことでした。劇が終わった後，泣いてくれている方もいて，とても嬉しかったです。来年も小中で学習発表会があると思うので，みんなと，また頑張りたいです。
2年 伊元　白飛	裏方で役者のサポートをしました。今年も文化祭は役者の人も，裏方の人もみんなで協力して最高の劇になりました。対馬丸事件と長崎の原爆の悲惨さを観客に伝え，引き継いでいってほしいという思いが伝わっているといいです。
3年 元田　晴馬	学習文化委員長として，みんなで協力して成功できたのでよかったです。大道具・小道具班として，対馬丸や小さなガレキなどちゃんと用意することができたし，役者と話し合い，出すタイミングを確認できたけれど，本番では竹筒を出せなかったり，仕舞うタイミングを間違ったりしてしまいました。他は成功したのでよかったです。対馬丸や原爆の悲劇から絶対に戦争を起こしてはいけないと思いました。とても楽しい文化祭でした。

表現豊かな発表でした～村英語ショートスピーチ・弁論大会～

13日(水)に，今年度２回目の村集合学習が，元気の出る館と村グランドで開催されました。村英語ショートスピーチコンテスト・弁論大会には７人の生徒が本校代表として発表を行いました。毎日昼休みに担当の先生の指導のもと，練習に励んできました。発表の論題は「大切な役割」や「大切な思い出」，「部活動について」，「剣道の道」，「さあ笑おう」，「言葉の大切さ」，「１分１秒を大切に」と，身近なことを取り上げて自分の意見を主張しました。出場した生徒は身振り手振りをつけたり，抑揚をつけたり，役者のような表現をしたりするなど工夫して発表しました。３年の松井ひめみさんが弁論の部で優秀賞に輝きました。今年も各学校ともに素晴らしい内容の発表でした。午後からは，村の中学校全体でソフトボールを行いました。小規模校では普段なかなか取り組めないスポーツでしたが，みんなでカバーしあったり，応援したりして楽しく競技でき，交流を深められました。

小中合同ロードレース大会

日　時　　令和６年12月14日（土）
女子３km　１０：１５スタート
男子５km　１０：４５スタート

生徒が日頃の練習の成果を発揮して，精一杯走ります。御声援よろしくお願いします！

【12月】のおもな行事

1日(日) **人権週間(～11日)**
6日(金) 学校保健委員会「性に関する指導講話」
10日(火) スクールカウンセラー来校
14日(土) 土曜授業・ロードレース大会
14日(土) 1・2年学級PTA
24日(火) 終業式，大掃除
25日(水) 冬季休業(～1/7)
25日(水) 七ヶ宿との交流(～28日)

【田検中・学校だより「田城」2024・11月号】※田検中学校ブログも併せて御覧ください。
田検中学校ブログ　検索　←チェック